

アジア研究教育ユニット 令和5年度教育研究報告書

事業課題名	非常勤講師任用
代表者名	伊藤正子
事業概要 (600字程度)	<p>東南アジア諸国はそれぞれ独自の国家語を有し、多くの国では日常生活のみならず大学においてもそうした国家語が使われている。そのため学生が東南アジアへの理解を深め、また有意義な学術交流を行う上では、東南アジアの言語の習得が不可欠である。本事業では、ベトナム語を対象にこの能力を向上させ、現地大学とのより有意義な人材交流に資することをめざす。特に、基本的な文章読解能力と初級会話能力の涵養に重点を置き、受講者の習熟度に応じて柔軟に対応する。「ベトナム語 II(初級)」として、ベトナム語教授の経験豊富な吉本康子氏が担当し、講義は、後期分の実施とする。</p>
成果の概要 (800字程度)	<p>本事業では、受講生数は単位の取得を目的としない2名（農学研究科1名、工学部1年生1名）を含む7名（文学研究科1名、文学部3名、農学部1名）であった。</p> <p>受講生の受講動機としては、文学研究科の院生1名は対照言語学の観点からベトナム語について関心を持っており、博士論文でベトナム語と日本語の比較研究を行いたいとのことであった。文学部の1名と農学部の1名は卒業論文の執筆に向けて国内のベトナム料理店やベトナム食材店でフィールド調査を行っており、その際にベトナム語が必要であるためとのことであった。工学部1名は夏季休暇中のベトナムスタディーツアーに参加したことでベトナム語の学習意欲が増したため、農学研究科1名はベトナムでの調査を予定していることをそれぞれ受講の動機として挙げた。</p> <p>単位の取得を目的としない2名と出席日数不足の1名を除く4名の単位を認定した。いずれの受講生も発音の難解さに困惑気味であったが、基本的な文型を使った文章の理解、挨拶表現の習得など初級の学習の目標を達成することができた。受講生のうち3名は2024年2月から3月の多文化共学短期派遣留学プログラムに参加し、現地では発音の難しさを痛感させられながらも理解できる部分も意外と多かったようで、帰国後も意欲的に学習を継続しているとのことである。</p>